

平成31年4月着工・平成32年9月開庁予定

新角館庁舎の 実施設計が完了しました

市民協働を活性化させるまちづくりの拠点「新角館庁舎」

平成30年4月に完了した仙北市新角館庁舎基本設計にもとづき、より詳細な仕様などの計画・検討を進めてきましたが、このたび仙北市新角館庁舎建設実施設計が完了しましたので、お知らせします。

今後は、『市民協働を活性化させるまちづくりの拠点』を実現するための庁舎として、皆さまが安心して訪れ、利用できる新角館庁舎を建設します。



新角館庁舎 外観イメージ

親しみがあり 市民が利用しやすい庁舎

新角館庁舎は角館のまち並みを意識したデザインにしました。内部は木を基調とした内装とし、メインエントランスを入ると天井には木製ルーバーを見ることができます。窓口カウンターを木製としているほか、市民スペースには木のいすやテーブルを配置していて、木が香り、居心地がよく親しみがわく庁舎となるよう計画しました。

また、市民スペースは会議室とあわせて利用することで様々な用途で利用することができます。これにより、市民や団体などが活動できるスペースとして、市民協働、まちづくりの拠点として市民交流を促進させる、市民が集いやすい場所となります。

来庁者を案内する各種サインは、行きたい場所がわかりやすいよう計画しました。また、角館の伝統工芸品である樺細工をちりばめて、見た目にも親しみがあるデザインとしています。

災害時にも庁舎機能を発揮できる BCP(事業継続型)庁舎

新角館庁舎は、災害発生直後から庁舎機能を十分に発揮できるBCP(事業継続型)庁舎として計画しました。建物は十分な耐震性を備えていて、2階会議室は災害時に防災対策室として利用可能です。会議室収納庫には防災対策設備を配備し、迅速に災害対策本部と連携した防災対応ができます。

ライフラインについては、停電時でも電力供給ができる非常用自家発電設備を設置し、3日間連続稼働できる燃料を備蓄します。水源は上水道と雨水の2系統を計画していて、雨水を有効利用する設備を計画しました。雨水は屋根で集水し断水時でも雑用水として使用できます。災害時でも自立性のある庁舎としました。

景観・環境に配慮し 自然エネルギーと共生する庁舎

角館の武家屋敷に見られる切妻屋根、格子をイメージした外観として角館らしい景観にあわせたデザインとしました。格子をイメージしたルーバーは自然光を優しく取り込み、大きな庇は天候による影響を受けずに来庁者を出迎えます。

新角館庁舎の熱源は再生可能エネルギーである地中熱を利用した設備を計画しました。地中熱利用設備は地下100mまでの熱を利用した地中熱ヒートポンプによる空調・融雪設備です。地中熱を利用することでランニング・ライフサイクルコストを低減するとともに、地域に先駆けてCO₂削減に率先して取り組みます。

ご意見・お問合せ

仙北市企画政策課 ☎ 43-1112
E-mail kikaku@city.semboku.akita.jp

計画概要

計画地：①新角館庁舎 仙北市角館町中菅沢78-9他
②公用車庫 仙北市角館町中菅沢82-9他
敷地面積：15,531.19㎡(①+②)
①新角館庁舎+第1駐車場 7,144.01㎡
②公用車庫+第2駐車場 8,387.18㎡

【新角館庁舎】

建築面積：2,329.37㎡
延床面積：4,071.65㎡
階数：地上2階+塔屋
構造：鉄筋コンクリート造+一部鉄骨造
耐震性能：構造体Ⅰ類
施設熱源：地中熱ヒートポンプ+冷温水発生機
防災設備：防災対策用会議室1室
防犯設備：防犯カメラ、機械警備

【公用車庫】

建築面積：852.43㎡
延床面積：852.43㎡
階数：平屋
構造：鉄骨造
収容台数：乗用車28台、大型バス1台、除雪車1台

第1駐車場

新角館庁舎

公用車庫

第2駐車場

新角館庁舎整備工事費

工事区分	工事費(円:税込)
①新角館庁舎建設工事	1,630,402,560
②公用車庫建設工事	②～⑥工事費計
③地中熱利用設備工事	
④第1駐車場外構工事	528,427,400
⑤第2駐車場外構工事	
⑥仮設駐車場工事	2,158,829,960
新角館庁舎整備工事費計	

新角館庁舎 周辺全景イメージ